

びよびよ伸ばして楽器を鳴らそう

教科・場面

音楽

授業・実践のねらい

小さな動きでダイナミックな音を鳴らし、生徒の反応を引き出す。
触れたことのない楽器に触れることで、生徒の人生経験を深める。

対象の児童・生徒

中学部1・2班の生徒10名

【C 類型】 重度重複スコア 要求表出・人間関係
共にⅠ～Ⅲ 程度

- ・音に対して表情豊かに反応する生徒が多い。
- ・バチやマレットを持つことが難しい生徒が多く、また素早く手を動かすなど、何かを「叩く」「打つ」といった動作は困難。
- ・腕を寄せる、指先を動かすなど、ゆっくりだが確実な動作ができる生徒が多い。
- ・小学部からの学習の積み重ねで、生徒たちは音楽室の楽器の多くを鳴らしたことがある。

教材・教具 手作りチャイムとバチ アナラポス



工夫したところ

- ① ゴム紐でどちらの楽器も鳴らしやすくした。
- ② 費用対効果(手作りチャイムにかかった費用は数千円だが、ダイナミックな音が出る)

教材の使い方

- チャイム…バチの先に付いているゴム紐の輪をチャイムの音管に引っ掛け、バチの根元に付いている輪を指先に引っ掛ける。ゴム紐を引っ張り、生徒の動きに応じて指先から輪が外れるように支援する。バチがゴム紐に引っ張られて飛んでいき、音が鳴る。
- アナラポス(糸電話ならぬバネ電話)…糸電話のように使用すればコンサートホールのような響きが、バネを引っ張ったり縮めたりすると光線銃のような音が、伸びているバネが何かに触れると面白い音が鳴る。授業で使用するときは、コップのフチ部分に輪ゴムをクリップ止めしている。輪ゴムに指を通して楽器をぶら下げると、指が動いたときに音が出る。(音が鳴りにくいときは、指が少し動けばバネに何か触れるようにしておく)

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・チャイムに関しては、ゴム紐を使っていなかったときよりも使うようになってからの方が生徒の手の動きが出せるようになった。また、ゴム紐の動きのダイナミックさと音の鳴り方がマッチしているのか、鳴っている楽器への注視も見られるようになった。
- ・アナラポスに関しては、初めて使ったときよりもよい表情で取り組めることが増え、毎授業の導入の教材として使用することで「音楽の授業の始まり」を感じられている様子である。